

特定非営利活動法人ワンダブル二度目の命定款

第1章 総則

(名称)

第1条 この法人は、特定非営利活動法人ワンダブル二度目の命という。

(事務所)

第2条 この法人は、主たる事務所を和歌山県和歌山市米屋町2 FNビルに置く。

第2章 目的及び事業

(目的)

第3条 この法人は、人間やペットが健康で安心して生き生きと暮らせる社会を実現するために、女性、子ども、高齢者、生活困窮者、障害者、ペット等、誰もが集えるまちづくりの推進を図ることを目指す。

(特定非営利活動の種類)

第4条 この法人は、その目的を達成するため、次に掲げる種類の特定非営利活動を行う。

- 1.環境の保全を図る活動
- 2.社会教育の推進を図る活動
- 3.まちづくりの推進を図る活動
- 4.災害救援活動
- 5.保健、医療又は福祉の増進を図る活動
- 6.子どもの健全育成を図る事業
- 7.経済活動の活性化を図る活動

(事業)

第5条 この法人は、その目的を達成するため次の事業を行う。

特定非営利活動に係る事業

- 1.殺処分されるペット、行先のないペットの命を保全する事業
- 2.生きがいづくり、ボランティア、娯楽等を通し社会教育を育む事業
- 3.子ども食堂、認知症カフェ等三世代間交流活動を支援する事業
- 4.生活困窮者に対して支援する事業
5. その他、第3条の目的を達成する為に必要な事業

第3章 会員

(種別)

第 6 条 この法人の会員は、次の 2 種とし、正会員をもって特定非営利活動促進法（以下「法」という。）上の社員とする。

- (1) 正会員 この法人の目的に賛同して入会した個人及び団体
- (2) 賛助会員 この法人の事業を賛助するために入会した個人及び団体

（入会）

第 7 条 会員の入会については、特に条件を定めない。

2 会員として入会しようとするものは、理事長が別に定める入会申込書により、**理事長に申し込むものとし、理事長は、正当な理由がない限り、入会を認めなければならない。**

3 理事長は、前項のものの入会を認めないときは、速やかに、理由を付した書面をもって本人にその旨を通知しなければならない。

（入会金及び会費）

第 8 条 会員は、総会において別に定める入会金及び会費を納入しなければならない。

（会員の資格の喪失）

第 9 条 会員が次の各号の一に該当するに至ったときは、その資格を喪失する。

- (1) 退会届の提出をしたとき。
- (2) 本人が死亡し、又は会員である団体が消滅したとき。
- (3) 継続して 2 年以上会費を滞納したとき。
- (4) 除名されたとき。

（退会）

第 10 条 会員は、理事長が別に定める退会届を理事長に提出して、任意に退会することができる。

（除名）

第 11 条 会員が次の各号の一に該当するに至ったときは、総会の議決により、これを除名することができる。この場合、その会員に対し、議決の前に弁明の機会を与えなければならない。

- (1) この定款等に違反したとき。
- (2) この法人の名誉を傷つけ、又は目的に反する行為をしたとき。

第4章 役員及び職員

（種別及び定数）

第 12 条 この法人に次の役員を置く。

- (1) 理事 3 人以上 15 人以内
- (2) 監事 1 人以上 3 人以内

2 理事のうち、1 人を理事長、2 人を副理事長とする。

(選任等)

第 13 条 理事及び監事は、総会において選任する。

- 2 理事長及び副理事長は、理事の互選とする。
- 3 役員のうちには、それぞれの役員について、その配偶者若しくは 3 親等以内の親族が 1 人を超えて含まれ、又は当該役員並びにその配偶者及び 3 親等以内の親族が役員の総数の 3 分の 1 を超えて含まれることになってはならない。
- 4 監事は、理事又はこの法人の職員を兼ねることができない。

(職務)

第 14 条 理事長は、この法人を代表し、その業務を総理する。

- 2 理事長以外の理事は、法人の業務について、この法人を代表しない。
- 3 副理事長は、理事長を補佐し、理事長に事故あるとき又は理事長が欠けたときは、理事長があらかじめ指名した順序によって、その職務を代行する。
- 4 理事は、理事会を構成し、この定款の定め及び理事会の議決に基づき、この法人の業務を執行する。
- 5 監事は、次に掲げる職務を行う。
 - (1) 理事の業務執行の状況を監査すること。
 - (2) この法人の財産の状況を監査すること。
 - (3) 前 2 号の規定による監査の結果、この法人の業務又は財産に関し不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実があることを発見した場合には、これを総会又は所轄庁に報告すること。
 - (4) 前号の報告をするため必要がある場合には、総会を招集すること。
 - (5) 理事の業務執行の状況又はこの法人の財産の状況について、理事に意見を述べ、若しくは理事会の招集を請求すること。

(任期等)

第 15 条 役員の任期は、2 年とする。ただし、再任を妨げない。

- 2 前項の規定にかかわらず、後任の役員が選任されていない場合には、任期の末日後最初の総会が終結するまでその任期を伸長する。
- 3 補欠のため、又は増員によって就任した役員の任期は、それぞれの前任者又は現任者の任期の残存期間とする。
- 4 役員は、辞任又は任期満了後においても、後任者が就任するまでは、その職務を行わなければならない。

(欠員補充)

第 16 条 理事又は監事のうち、その定数の 3 分の 1 を超える者が欠けたときは、遅滞なくこれを補充しなければならない。

(解任)

第 17 条 役員が次の各号の一に該当するに至ったときは、総会の議決により、これを解任することができる。この場合、その役員に対し、議決する前に弁明の機会を与えなければならない。

- (1) 職務の遂行に堪えない状況にあると認められるとき。
- (2) 職務上の義務違反その他役員としてふさわしくない行為があったとき。

(報酬等)

第 18 条 役員は、その総数の 3 分の 1 以下の範囲内で報酬を受けることができる。

- 2 役員には、その職務を執行するために要した費用を弁償することができる。
- 3 前 2 項に関し必要な事項は、総会の議決を経て、理事長が別に定める。

(職員)

第 19 条 この法人に、事務局長その他の職員を置く。

- 2 職員は、理事長が任免する。

第5章 総会

(種別)

第 20 条 この法人の総会は、通常総会及び臨時総会の 2 種類とする。

(構成)

第 21 条 総会は、正会員をもって構成する。

(権能)

第 22 条 総会は、以下の事項について議決する。

- (1) 定款の変更
- (2) 解散
- (3) 合併
- (4) 事業計画及び活動予算並びにその変更
- (5) 事業報告及び活動決算
- (6) 役員の選任又は解任、職務及び報酬
- (7) 入会金及び会費の額
- (8) 借入金（その事業年度内の収益をもって償還する短期借入金を除く。第 48 条において同じ。）その他新たな義務の負担及び権利の放棄
- (9) 事務局の組織及び運営
- (10) その他運営に関する重要事項

(開催)

第 23 条 通常総会は、毎事業年度 1 回開催する。

- 2 臨時総会は、次の各号の一に該当する場合に開催する。

- (1) 理事会が必要と認め招集請求をしたとき。
- (2) 正会員総数の 5 分の 1 以上から会議の目的である事項を記載した書面をもって招集の請求があったとき。
- (3) 第 14 条第 5 項第 4 号の規定により、監事から招集があったとき。

(招集)

第 24 条 総会は、第 23 条第 2 項第 3 号の場合を除き、理事長が招集する。

- 2 理事長は、第 23 条第 2 項第 1 号及び第 2 号の規定による請求があったときは、その日から 15 日以内に臨時総会を招集しなければならない。
- 3 総会を招集するときは、会議の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書面又は電磁的方法をもって、少なくとも総会の 7 日前までに通知しなければならない。

(議長)

第 25 条 総会の議長は、その総会において、出席した正会員の中から選出する。

(定足数)

第 26 条 総会は、正会員総数の 2 分の 1 以上の出席がなければ開催することができない。

(議決)

第 27 条 総会における議決事項は、第 24 条第 3 項の規定によってあらかじめ通知した事項とする。

- 2 総会の議事は、この定款に規定するもののほか、出席した正会員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
- 3 理事又は正会員が総会の目的である事項について提案した場合において、正会員の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたときは、当該提案を可決する旨の社員総会の決議があったものとみなす。

(表決権等)

第 28 条 各正会員の表決権は、平等なるものとする。

- 2 やむを得ない理由のため総会に出席できない正会員は、あらかじめ通知された事項について書面又は電磁的方法をもって表決し、又は他の正会員を代理人として表決を委任することができる。
- 3 前項の規定により表決した正会員は、第 26 条、第 27 条第 2 項、第 29 条 1 項第 2 号及び第 49 条の適用については、総会に出席したものとみなす。
- 4 総会の議決について、特別の利害関係を有する正会員は、その議事の議決に加わることができない。

(議事録)

第 29 条 総会の議事については、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

- (1) 日時及び場所

- (2) 正会員総数及び出席者数（書面表決者及び電磁的方法による表決者又は表決委任者がある場合にあっては、その数を付記すること。）
 - (3) 審議事項
 - (4) 議事の経過の概要及び議決の結果
 - (5) 議事録署名人の選任に関する事項
- 2 議事録には、議長及びその会議において選任された議事録署名人 2 人以上が署名、押印しなければならない。
- 3 前 2 項の規定に関わらず、正会員全員が書面又は電磁的方法により同意の意思表示をしたことにより、総会の決議があったとみなされた場合においては、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。
- (1) 総会の決議があったものとみなされた事項の内容
 - (2) 前号の事項の提案をした者の氏名又は名称
 - (3) 総会の決議があったものとみなされた日
 - (4) 議事録の作成に係る職務を行った者の氏名

第6章 理事会

（構成）

第 30 条 理事会は、理事をもって構成する。

（権能）

第 31 条 理事会は、この定款で定めるもののほか、次の事項を議決する。

- (1) 総会に付議すべき事項
- (2) 総会の議決した事項の執行に関する事項
- (3) その他総会の議決を要しない会務の執行に関する事項

（開催）

第 32 条 理事会は、次の各号の一に該当する場合に開催する。

- (1) 理事長が必要と認めたとき。
- (2) 理事総数の 5 分の 1 以上から会議の目的である事項を記載した書面をもって招集の請求があったとき。
- (3) 第 14 条第 5 項第 5 号の規定により、監事から招集の請求があったとき。

（招集）

第 33 条 理事会は、理事長が招集する。

- 2 理事長は、第 32 条第 2 号及び第 3 号の規定による請求があったときは、その日から 10 日以内に理事会を招集しなければならない。
- 3 理事会を招集するときは、会議の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書面又は電磁的方法をもって、少なくとも理事会の 5 日前までに通知しなければならない。

（議長）

第 34 条 理事会の議長は、理事長がこれに当たる。

(議決)

第 35 条 理事会における議決事項は、第 33 条第 3 項の規定によってあらかじめ通知した事項とする。

- 2 理事会の議事は、理事総数の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(表決権等)

第 36 条 各理事の表決権は、平等なるものとする。

- 2 やむを得ない理由のため理事会に出席できない理事は、あらかじめ通知された事項について書面又は電磁的方法をもって表決することができる。
- 3 前項の規定により表決した理事は、第 35 条第 2 項及び第 37 条第 1 項第 2 号の適用については、理事会に出席したものとみなす。
- 4 理事会の議決について、特別の利害関係を有する理事は、その議事の議決に加わることができない。

(議事録)

第 37 条 理事会の議事については、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

- (1) 日時及び場所
 - (2) 理事総数、出席者数及び出席者氏名（書面表決者及び電磁的方法による表決者にあつては、その旨を付記すること。）
 - (3) 審議事項
 - (4) 議事の経過の概要及び議決の結果
 - (5) 議事録署名人の選任に関する事項
- 2 議事録には、議長及びその会議において選任された議事録署名人 2 人以上が署名、押印しなければならない。

第7章 資産及び会計

第 38 条 この法人の資産は、次の各号に掲げるものをもって構成する。

- (1) 設立の時の財産目録に記載された資産
- (2) 入会金及び会費
- (3) 寄付金品
- (4) 財産から生じる収益
- (5) 事業に伴う収益
- (6) その他の収益

(資産の区分)

第 39 条 この法人の資産は、特定非営利活動に係る事業に関する資産のみとする。

(資産の管理)

第 40 条 この法人の資産は、理事長が管理し、その方法は、総会の議決を経て、理事長が別に定める。

(会計の原則)

第 41 条 この法人の会計は、法第 27 条各号に掲げる原則に従って行うものとする。

(会計の区分)

第 42 条 この法人の会計は、特定非営利活動に係る事業に関する会計のみとする。

(事業計画及び予算)

第 43 条 この法人の事業計画及びこれに伴う活動予算は、理事長が作成し、総会の議決を経なければならない。

(暫定予算)

第 44 条 前条の規定にかかわらず、やむを得ない理由により予算が成立しないときは、理事長は、理事会の議決を経て、予算成立の日まで前事業年度の予算に準じ収益費用を講じることができる。

2 前項の収益費用は、新たに成立した予算の収益費用とみなす。

(予算の追加および更正)

第 45 条 予算議決後にやむを得ない事由が生じたときは、総会の議決を経て、既定予算の追加または更正をすることができる。

(事業報告及び決算)

第 46 条 この法人の事業報告書、活動計算書、貸借対照表及び財産目録等の決算に関する書類は、毎事業年度終了後、速やかに、理事長が作成し、監事の監査を受け、総会の議決を経なければならない。

2 決算上剰余金を生じたときは、次事業年度に繰り越すものとする。

(事業年度)

第 47 条 この法人の事業年度は、毎年 4 月 1 日に始まり翌年 3 月 31 日に終わる。

(臨機の措置)

第 48 条 予算をもって定めるもののほか、借入金の借入その他新たな義務の負担をし、又は権利の放棄をしようとするときは、総会の議決を経なければならない。

第8章 定款の変更、解散及び合併

(定款の変更)

第 49 条 この法人が定款を変更しようとするときは、総会に出席した正会員の 4 分の 3 以上の多数による議決を経、かつ、法第 25 条第 3 項に規定する以下の事項を変更する場合、所轄庁の認証を得なければならない。

- (1) 目的
- (2) 名称
- (3) その行う特定非営利活動の種類及び当該特定非営利活動に係る事業の種類
- (4) 主たる事業所及びその他の事務所の所在地（所轄庁変更を伴うものに限る）
- (5) 社員の得喪に関する事項
- (6) 役員に関する事項（役員の定数に関する事項を除く）
- (7) 会議に関する事項
- (8) その他の事業を行う場合における、その種類その他当該その他の事業に関する事項
- (9) 解散に関する事項（残余財産の帰属すべき事項に限る）
- (10) 定款の変更に関する事項

（解散）

第 50 条 この法人は、次に掲げる事由により解散する。

- (1) 総会の決議
 - (2) 目的とする特定非営利活動に係る事業の成功の不能
 - (3) 正会員の欠亡
 - (4) 合併
 - (5) 破産手続き開始の決定
 - (6) 所轄庁による設立の認証の取消し
- 2 前項第 1 号の事由によりこの法人が解散するときは、正会員総数の 4 分の 3 以上の承諾を得なければならない。
- 3 第 1 項第 2 号の事由により解散するときは、所轄庁の認定を得なければならない。

（残余財産の帰属）

第 51 条 この法人が解散（合併又は破産による解散を除く。）したときに残存する財産は、法第 11 条第 3 項に掲げる者のうち、解散時の総会で議決するものに譲渡するものとする。

（合併）

第 52 条 この法人が合併しようとするときは、総会において正会員総数の 4 分の 3 以上の議決を経、かつ、所轄庁の認証を得なければならない。

第9章 公告の方法

（公告の方法）

第 53 条 この法人の公告は、この法人の掲示場に掲示するとともに、官報に掲載して行う。

ただし、法第28条の2第1項に規定する貸借対照表の公告については、この法人の主たる事務所の掲示場に掲示して行う。

第10章 雑則

(細則)

第54条 この定款の施行について必要な細則は、理事会の議決を経て、理事長がこれを定める。

附則

1 この定款は、この法人の成立の日から施行する。

2 この法人の設立当初の役員は、次に掲げる者とする。

理事長	成戸	文子
副理事長	間	勝利
同	中谷	廉子
理事	岡本	博亜
同	才辻	進
同	高橋	良精
同	頓花	俊二
同	藤原	卓
同	榎谷	基
同	森	好孝
同	山本	境子
同	湯川	哲弘
監事	吉田	起代子
同	重光	学

3 この法人の設立当初の役員の任期は、第15条第1項の規定にかかわらず、成立の日から平成27年5月31日までとする。

4 この法人の設立当初の事業計画及び活動予算は、第43条の規定にかかわらず、設立総会の定めるところによるものとする。

5 この法人の設立当初の事業年度は、第47条の規定にかかわらず、設立の日から平成27年3月31日までとする。

6 この法人の設立当初の入会金及び会費は、第8条の規定にかかわらず、次に掲げる額とする。

(1)	正会員入会金	0円	
(2)	正会員会費	6000円	(1年間分)

- | | | | | |
|-----|---------|-----------|---------|-------|
| (3) | 賛助会員入会金 | 0 円 | | |
| (4) | 賛助会員会費 | 6 0 0 0 円 | (1 年間分) | 1 口以上 |

様式例・記載例（法第 25 条第 4 項関係「定款の変更の日の属する事業年度の事業計画書」）

令和 8 年度の事業計画書

令和 8 年 4 月 1 日から令和 9 年 3 月 31 日まで

特定非営利活動法人ワンダブル二度目の命

1 事業実施の方針

- ・ 本事業年度は、従来からの事業については確実に実施することを目標とする。
- ・

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名 (定款に記載 した事業)	具体的な 事業内容	実施予定 日時	実施予定 場所	従事者の 予定人数	受益対象者の 範囲及び予定 人数	事業費の 予算額 (千円)
①殺処分される ペット、行先 のないペット の命を保全す る事業	・ 飼えない犬、猫、捨 て犬・猫等を保護・ 飼育する	年間を通じて	主たる当法 人の飼育施 設	1 日 3 名	不特定多数	300
	・ 新しい飼主に譲渡 する	年間を通じて	FN ビル 3 F 4 F			
	・ 里親募集会開催	毎月第 2 日曜日	FN ビル 3 F 4 F	1 日 3 名	不特定多数	50
	・ ホテル預り中の犬 達へのストレスを軽 減する為と舐の継続 の為に屋外又は屋上 でリードをつけての 散歩を日々行う	年間を通じて	主たる当法 人の飼育施 設	1 日 2 名	不特定多数	120
	・ 飼主の旅行等留守 をする時等にペッ トを預り飼育 ・ 飼主が飼育できな くなった老犬を最 後まで飼育	年間を通じて	主たる当法 人の飼育施 設	1 日 3 名	不特定多数	200
②生きがいがづく り、ボランティ ア、娯楽等を通 し社会教育を育 む事業	・ カラオケ開催	月 1 回	FN ビル 2 F	2 名	不特定多数	21
③子ども食堂、 認知症カフェ等 三世代間交流活 動を支援する事 業	こども食堂開催 子 どもから高齢者ま で様々な行事を通 じて交流を図る	毎月第 4 日曜日	FN ビル 2 F	1 回 9 名	5 世帯児童 10 人	99
④生活困窮者に 対して支援する 事業	和歌山市の生活困窮 者就労訓練事業認 定を受けた事業	年間を通じて	FN ビル B1 F	3 名	不特定多数	20
⑤その他、第 3 条 の目的を達成す る為に必要な事	・ 事業内容を多くの 方に知っていただ くために、PR のホ	年間を通じて	全国 (WEB)	3 名	不特定多数	10

業	ームページを更新 ・会報の配布					
---	--------------------	--	--	--	--	--

(2) その他の事業

事業名 (定款に記載 した事業)	具体的な事業内容	実施予定日時	実施予定場所	従事者の 予定人数	事業費 の 予算額 (千 円)
該当事業なし					

(注意事項)

- 1 定款の変更の日の属する事業年度の事業計画書及び翌事業年度の事業計画書は、それぞれ別葉として作成する。
- 2 上記2は、(1)には特定非営利活動に係る事業、(2)にはその他の事業について区分を明らかにして記載する。
- 3 上記2(2)には、定款上、「その他の事業」に関する事項を定めているものの、当該事業年度にその他の事業を実施する予定がない場合、「実施予定なし」と記載する。

様式例・記載例（法第 25 条第 4 項関係「定款の変更の日の属する事業年度の事業計画書」）

令和 9 年度の事業計画書

令和 9 年 4 月 1 日から令和 10 年 3 月 31 日まで

特定非営利活動法人ワンダブル二度目の命

1 事業実施の方針

- ・ 本事業年度は、従来からの事業については確実に実施することを目的とする。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名 (定款に記載 した事業)		実施予定 日時	実施予定 場所	従事者の 予定人数	受益対象者の 範囲及び予定 人数	事業費の 予算額 (千円)
①殺処分される ペット、行先 のないペット の命を保全す る事業	・飼えない犬、猫、捨て 犬・猫等を保護・ 飼育する	年間を通じて	主たる当法 人の飼育実 施	1 日 3 名	不特定多数	300
	・新しい飼主に譲渡 する	年間を通じて	FN ビル 3 F 4 F			
	・里親募集会開催	毎月第 2 日曜日	FN ビル 3 F 4 F	1 日 3 名	不特定多数	50
	・ホテル預り中の犬 達へのストレスを 軽減する為と糞の 継続の為に屋外又 は屋上でリードを つけての散歩を 日々行う	年間を通じて	主たる当法 人の飼育施 設	1 日 2 名	不特定多数	120
	・飼主の旅行等留守 をする時等にペット を預り飼育 ・飼主が飼育できな くなった老犬を最 後まで飼育	年間を通じて	主たる当法 人の飼育施 設	1 日 3 名	不特定多数	200
②生きがいつく り、ボランティ ア、娯楽等を通 し社会教育を育 む事業	・カラオケ大会	月 1 回	FN ビル 2 F	2 名	不特定多数	21
③子ども食堂、 認知症カフェ等 三世代間交流活 動を支援する事 業	子ども食堂開催 子 どもから高齢者ま で様々な行事を通 して交流を図る	毎月第 4 日曜日	FN ビル 2 F	1 回 9 名	5 世帯児童 1 0 人	99
④生活困窮者に 対して支援する 事業	和歌山市の生活困窮 者就労訓練事業認 定を受けた事業	年間を通じて	FN ビル B1F	3 名	不特定多数	20
⑤その他、第 3 条の目的を達成 する為に必要な 事業	・事業内容を多くの方 に知っていただく ために、PR のホ ームページを更新 。会報の配布	年間を通じて	全国 (WEB)	3 名	不特定多数	10

(2) その他の事業

事業名 (定款に記載 した事業)	具体的な事業内容	実施予定日時	実施予定場所	従事者の 予定人数	事業費 の 予算額 (千 円)
該当事業なし					

(注意事項)

- 1 定款の変更の日の属する事業年度の事業計画書及び翌事業年度の事業計画書は、それぞれ別葉として作成する。
- 2 上記2は、(1)には特定非営利活動に係る事業、(2)にはその他の事業について区分を明らかにして記載する。
- 3 上記2(2)には、定款上、「その他の事業」に関する事項を定めているものの、当該事業年度にその他の事業を実施する予定がない場合、「実施予定なし」と記載する。

令和8年度 活動予算書

令和8年4月1日から令和9年3月31日まで

特定非営利活動法人ワンダブル二度目の命

（単位：円）

科目	金額		
I 経常収益			
1. 受取会費	500,000		
2. 受取寄附金	1,000,000		
3. 受取助成金等			
4. 事業収益			
5. その他収益	1,500		
受取利息	1,500		
雑収入			
経常収益計			1,503,000
II 経常費用			
1. 事業費			
商品仕入れ	100,000		
(1) 人件費			
給料手当			
法定福利費			
人件費計	0		
(2) その他経費			
通信費	40,000		
消耗品費	30,000		
水道光熱費	500,000		
支払手数料	150,000		
その他経費計	720,000		
事業費計		820,000	
2. 管理費			
(1) 人件費			
人件費計	0		
(2) その他経費			
事務用品費	30,000		
保険料	50,000		
雑費	500,000		
その他経費計	580,000		
管理費計		580,000	
経常費用計			1,400,000
当期経常増減額			103,000
III 経常外収益			
経常外収益計		0	
IV 経常外費用			
経常外費用計		0	
当期正味財産増減額			103,000
前期繰越正味財産額			-40,648,529
次期繰越正味財産額			-40,545,529

令和9年度 活動予算書

令和9年4月1日から令和10年3月31日まで

特定非営利活動法人ワンダブル二度目の命
(単位：円)

科目	金額		
I 経常収益			
1. 受取会費	500,000		
2. 受取寄附金	1,000,000		
3. 受取助成金等			
4. 事業収益			
5. その他収益	1,500		
受取利息	1,500		
雑収入			
経常収益計			1,503,000
II 経常費用			
1. 事業費			
商品仕入れ	100,000		
(1) 人件費			
給料手当			
法定福利費			
人件費計	0		
(2) その他経費			
通信費	40,000		
消耗品費	30,000		
水道光熱費	500,000		
支払手数料	150,000		
その他経費計	720,000		
事業費計		820,000	
2. 管理費			
(1) 人件費			
人件費計	0		
(2) その他経費			
事務用品費	30,000		
保険料	50,000		
雑費	500,000		
その他経費計	580,000		
管理費計		580,000	
経常費用計			1,400,000
当期経常増減額			103,000
III 経常外収益			
経常外収益計		0	
IV 経常外費用			
経常外費用計		0	
当期正味財産増減額			103,000
前期繰越正味財産額			-40,545,529
次期繰越正味財産額			-40,442,529